

様式第 3 号(第 4 条関係)

会議録

■附属機関等の会議の名称

第 3 回篠山市原子力災害対策検討委員会

■開催日時

平成 25 年 2 月 21 日(木) 14 時 00 から 16 時 20 分まで

■開催場所

篠山市役所 301 会議室

■会議に出席した者の氏名

- (1) 委員 14 名
- (2) 執行機関事務局 4 名
- (3) その他 0 名

■傍聴人の数

1 名 (記者 1 名)

■議題及び会議の公開・非公開の別

公開

■非公開の理由

なし

■会議資料の名称

- |          |  |
|----------|--|
| 資料-1     | 第 2 回委員会のふりかえり【事前配布】   |
| 資料-2     | 国・県の今後の予定  |
| 資料-3     | 早急に取り組むべき防災対策に係る資料【事前配布】   |
| 資料-4     | 原子力防災対策の検討に向けた資料【事前配布】   |
| 資料-4 の 2 | 原子力防災の検討に係る作業部会の立ち上げスケジュール(案)  |
| 資料-4 の 3 | 原子力防災に係る検討項目   |
| 資料-5     | 【守田委員から配布依頼があった資料】【事前配布】<br>「放射能との共存時代を前向きに生きる」<br>出典：世界 2011 年 9 月号 |
| 資料-6     | 【玉山委員から配布依頼があった資料】【事前配布】<br>「原子力災害対策指針（防災指針）に関する問題点」                 |
| 資料-6 の 2 | 【守田委員から配布依頼があった資料】<br>「原子力災害をリアルに想定した備えを！備えることが危機の可能性をも減らす！」         |
| 資料-6 の 3 | 【守田委員から配布依頼があった資料】<br>「原発 30 キロ圏内の自治体の、原子力災害対策への取り組みの姿勢」             |
| 資料-6 の 4 | 【守田委員から配布依頼があった資料】   |

毎日新聞記事（平成 23 年 12 月 24 日）

参考資料－1 篠山市原子力災害対策検討委員会設置要綱（改正）

参考資料－2 防災指針改正に係る資料

■会議次第

1. 開 会
2. 報 告
  - (1)第 2 回委員会のふりかえり
  - (2)国・県の今後の予定
  - (3)早急に取り組むべき防災対策について
3. 議 題
  - (1)原子力防災対策の検討に向けて
    - ①検討組織のあり方について
    - ②今後のスケジュールについて
  - (2)原子力防災対策の検討に向けた意見交換
4. その他
5. 閉 会

■会議録（要点録）

1. 開 会
2. 報 告
  - (1)第 2 回委員会のふりかえり
  - (2)国・県の今後の予定
  - (3)早急に取り組むべき防災対策について

A 委員 ・安定ヨウ素剤の配布が早急に必要。明日発生するかもしれない事故に対して、早急に対応していくべき。

・緊急時との比較として、平常時の放射線量測定が必要。  
・要援護者に対しての避難計画を早く決める必要がある。

B 委員 ・安定ヨウ素剤 3～5 年保存可能。  
・トロロ昆布を大量に食べると、高齢者は腸閉塞の危険がある。昆布のダシ汁を飲むのがよい。（おわん 1 杯 5 mg のヨウ素）

C 委員 三春町から学ぶところが多い。

D 委員 安定ヨウ素剤については、勉強会を通してメリット、デメリットの情報を共有することが大切である。

A 委員 いわき市は、ヨウ素剤を配布したが、飲用指示はできなかった。

E 委員 市から県へヨウ素剤の予算措置を求めていくべき。

- B 委員 指示が無くても飲める（飲んでもよい）というように、市としてはしておきたいところである。
- F 委員 学校給食の放射線量測定における安全基準は？
- 事務局 一般食品の国の安全基準に準じている。100 ベクレル/kg以下。
- B 委員 どんな物質でも放射線を出しているの、どの値が安全なのかは厳密にはわからないのが現状である。（その放射線量とガンとの因果関係が特定できないため。）
- E 委員 放射線量の測定検査の方法そのものに問題がある。今のやり方では薄まってしまい正確な量がつかめていない。
- G 委員 加東市では学校給食での放射線量測定の体制ができています。
- C 委員 函館市のホームページには大間原発建設に反対する記載がある。
- D 委員 各家庭でできることのマニュアルづくりが必要である（外に出ない、水を確保しておく、など）。そして、これを各家庭に配布する。

### 3. 議 題

#### (1)原子力防災対策の検討に向けて

- ①検討組織のあり方について
- ②今後のスケジュールについて

#### (2)原子力防災対策の検討に向けた意見交換

- B 委員 保健所、警察、観光課の職員の参加も必要。
- F 委員 30 km圏外だからこそ独自性を出していけると考える。
- H 委員 リーダー（自治会長など）が学習していく必要がある。
- B 委員 市の独自性を出していくには、法的な縛りや財政的な縛りがある。その中でも、一自治体レベルでここまで議論したのだという足跡を残したい。これが、この委員会の存在意義だと思う。
- D 委員 篠山の地形や独特な風向きをよく分かっている人にも部会に入ってもらえたらいいと思う。

### 4. その他

### 5. 閉 会